

大阪工業大学工学部	正会員	○田村拓也
大阪工業大学工学部	学生員	中司涼介
大阪工業大学工学部	正会員	吉川 眞
大阪工業大学工学部	正会員	田中一成

1. はじめに

古来より日本人は、四季折々の自然を尊び、地域独自の風土にねざした文化を育むことで都市を形成してきた。とくに、明治の近代化による影響は大きく、神戸・阪神間などの西洋文化を交えながら形成された地域では固有な地域環境を形成していた。しかし、第2次世界大戦による戦災や高度経済成長期の急速な都市化により、利便性を重視した空間が整備され、多くの歴史的価値ある建造物や特有な町並みが失われている。

このような歴史的過程を経て、都市が成熟期にある近年では、景観法や歴史まちづくり法などの法整備が進み、歴史的な町並みとの共存に対する意識が高まりつつある。したがって、地域固有の歴史的町並みについて理解をすすめることが必要になると考えられる。

2. 研究の目的と方法

歴史的町並みを活かしたまちづくりをするためには、地域の過程について理解を進めることが重要になると考えられる。そこで、本研究では空間情報技術を用いて神戸・阪神間の変遷過程を把握し、これからの都市開発に必要であることを理解していく。

具体的には、時系列的に変遷過程を整理できる地理情報システム(GIS:Geographic Information System)を用いている。また、兵庫県の神戸・阪神間は、開港によって西洋文化が日本文化に混ざり合い、町並みが著しく変化してきた地域である。そのため、開港が行われた明治期以降に着目し、GISにより広域的なデータベースを作成している。そして、作成したデータベースから鉄道路線や海岸線、市街地の広がりなどについて2次元的な変遷把握を行う。また、神戸・阪神間において明治期以降に登場した歴史的建造物を対象年代ごとにプロットし、歴史的町並みが形成されていた地域を特定し、変遷過程における町並みの変化を明らかにしている。

3. 対象地

本研究では、兵庫県の神戸・阪神間を対象地に選定している(図-1)。明治時代の開港によって港が世界に開港された神戸・阪神間は、異文化の流入により阪神間モダニズムと呼ばれる近代的变化が生じた地域である。これによって、この地域には近代建築が軒を連ねるようになった。また、鉄道開発や住宅地の開発も積極的に行なわれたため、この地域は瞬く間に近代化を遂げていった。さらに、大阪のベッドタウンとして、多くの人々が神戸・阪神間に住むようになり、町並みが急激に変化していった。このように神戸・阪神間は阪神間モダニズムの影響を受けて形成されて地域であり、本研究では、この阪神間モダニズムが生じた範囲を対象にデータベースを構築し、変遷把握を行う。



図-1 対象地

4. 分析・把握

作成したデータを用いて、対象地の地域環境の変遷過程を2次元的に整理する。具体的には、GISを利用し幾何補正を行い、旧版地形図をGIS上の現代空間に位置づけた。

阪神間モダニズムの起こった時代の把握にあたり、旧版地形図は、1909年～1955年の3年代のものを使用している。旧版地形図で描かれている市街地や鉄道路線をトレースすることにより、市街地の構造の変化と鉄道路線の延線の状態を広範囲で整理している。また、神戸・阪神間は、北を六甲山麓、南を瀬戸内海に面する傾斜地であり、地理状況を考慮する必要がある。そのため、数値地図250mを用いて山岳部を表現し、海岸線をトレースすることで神戸・阪神間の地域環境を構築している(図-2)。

神戸・阪神間では山麓に沿うようにして鉄道路線が敷設されており、その路線に沿って新規に住宅地が開発される地域や市街地内に路線を通して地域も確認できた。また、アドレスマッチングを用いて、近代建築の所在地を把握することにより、神戸・阪神間において重要な地域を表現する。その結果、近代建築も鉄道路線に沿って集積していることが明らかになった。さらに、近代建築に属性データを付与することで、年代ごとの変化を把握できるようにしている。

また、広域だけでなく狭域で表現することにより、住宅地開発によって市街地が増減していく様子や鉄道に沿った開発もより詳細にみる事ができた。垂水地域では1910年に兵庫電気軌道(現・山陽電鉄)が延長したことで、新たに住宅地開発が進められているようすが確認できる。また、御影地域では、1920年に阪急鉄道の神戸-大阪間開通による住宅地開発と同時に、阪神鉄道の土地活用による住宅地変遷も確認でき、神戸・阪神間の中で異なった地域環境の変化を捉えられた(図-3)。わずかな時間の中で変遷が進められた歴史的町並みが存在することから、その地域の詳細なモデル化を行うことが、神戸・阪神間の景観保全につながると考えられる。

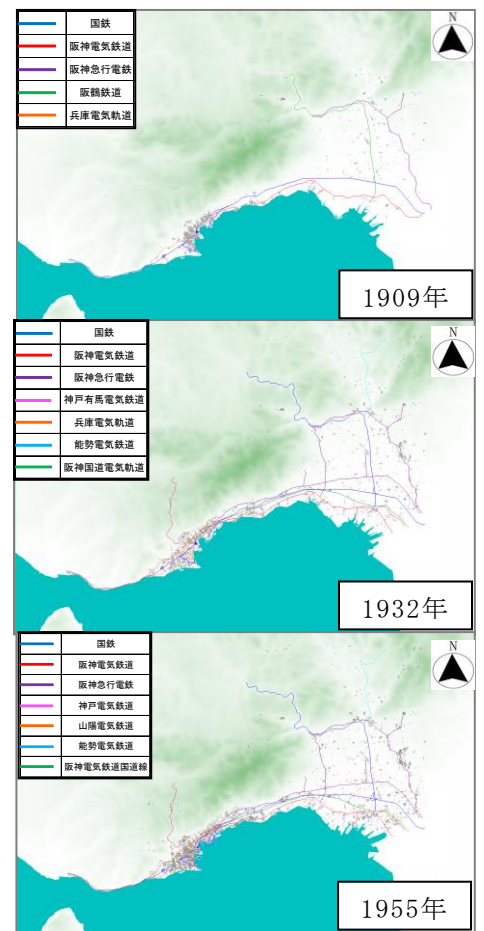


図-2 3年代の比較

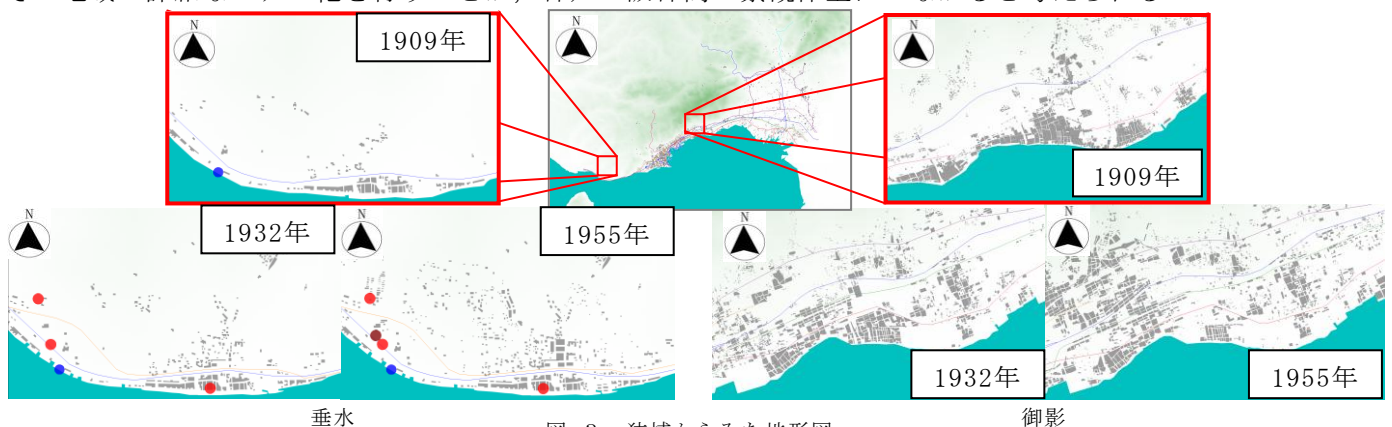


図-3 狭域からみた地形図

5. おわりに

本研究では、GISを用いることでデータベースを構築するとともに、地域環境の変化を把握した。また、神戸・阪神間を研究したうえで鉄道開発、つまり交通の発展によるところが、現在のこの地域の礎になっていたことが把握できた。さらに、構築したデータベースを用いることで広範囲の市街地の様子を整理することができた。

今後の課題として、さらなる広域な史料整備をおこなうとともに、変遷の過程で失われた歴史的町並みを復元することが挙げられる。